

音源の比較試聴(55)

—シューベルトの八重奏曲—

1. 始めに

前報(54)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤、CD、STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

PHILIPS SFX-8510

フランツ・シューベルト 八重奏曲へ長調 D 803

ベルリンフィル八重奏団

CD は下記を使用します。

Wisteria Project BPOC-0001

フランツ・シューベルト 八重奏曲へ長調 D 803

ベルリンフィル八重奏団

Paradise Records PRCG-1003

フランツ・シューベルト 八重奏曲へ長調 D 803

チェコハーモニック八重奏団

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

フランツ・シューベルト 八重奏曲へ長調 D 803

The Gaudier Ensemble

フランツ・シューベルト 八重奏曲へ長調 D 803

シャウロンアンサンブル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

CD

EMT-981→TruPhase(B)→TruPhase(A)

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのベルリンフィル八重奏団は、1971年の録音で、ソフトタッチの音質で、終始おだやかに弦と木管が対話していきます。

CDのベルリンフィル八重奏団の演奏は、演奏会に行き求めてきたもので2017年に来日時の国内における録音です。おなじベルリンフィルの演奏ですが、アナログと比べるとくっきりとしたメリハリのある演奏です。

CDのチェコハーモニック八重奏団の演奏は、1997年プラハのドボルザークホールでの録音で、穏やかに艶っぽい音で進行します。

STAGE+のThe Gaudier Ensembleの演奏は、初めて聴くアンサンブルの演奏のアルバムです。ゴージャズアンサンブルは、比較的最近結成された室内楽のアンサンブルでいろいろな室内楽のCDが発売されています。丁寧で緻密な演奏で音質も満足できるレベルです。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのシャウロンアンサンブルの演奏は2023年の収録で、ベルリンフィル八重奏団と同じベルリンフィルから構成されていますが、ベルリンフィル八重奏団とはメンバー構成が違います。収録年代が新しいだけあってか、音の精度はよく楽器の質感は十分で、コントラバスも明瞭です。同じベルリンフィルのメンバーによる演奏でも、アナログ、CDそして配信と比較できたのは興味深いことです。

4. まとめ

アナログ再生とSTAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなってきており、収録年代や収録環境やメディアの違いがよく分かります。

以上